

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070501541
法人名	医療法人社団 天翠会
事業所名	グループホームみどり
所在地	福岡県北九州市小倉南区上吉田3丁目16-1
自己評価作成日	令和2年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和2年12月16日	評価結果確定日	令和3年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にある安心・安全・安楽を柱とし支援させて頂いてます。また何よりも精神面に重点を置き心の安定を図り、心に寄り添える様な支援を目標とし、職員全員が同じ方向に向ける様にと考えております。入居者様お1人お1人とのコミュニケーションを図る中でその方が何を望んでいらっしゃるのかを探り、生活に楽しみをもって頂ける様に取り組みを行ってます。大半の方が歌がお好きなので、歌の時間は毎日短時間でも歌う様にしております。口腔体操時も歌を取り入れ行ってます。また、趣味で野菜を育てていた方に対しては、小さな畑と花壇を利用して野菜を植え収穫の慶調理に利用する事で会話と笑顔に繋がっています。今年はコロナウイルス感染防止の為、外部ボランティアや外出する事ができず、またご家族様とのご面会も出来ずに皆さんストレスも溜まっている為、職員も様々なレクなどを工夫し提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「吉田みどりの里」として、デイサービス事業所や居宅介護事業所が併設された広い敷地内にある「グループホームみどり」は、開設して19年目を迎える歴史を持つ事業所である。法人内の連携は、日々の健康管理や災害対策、職員育成や専門職の連携等に活かされ、理念の柱とされる「安心・安全・安楽」に過ごせる場所として、サービスの質の確保に取り組んでいる。コロナ禍の中、家族や地域との交流を中止せざるを得ない状況の中、敷地内の畑で野菜(かぼちゃ・オクラ・きゅうり・茄子・トマト等)を育て、入居者と共に収穫の喜びを味わったり、機能訓練や創作活動を通じて、心身の機能維持・活用に向けたアプローチを重ねている。全国的にマスク不足となった際には、家族よりマスクや衛生用品が届けられる等、日ごろの関係性がうかがえるエピソードもあった。管理者は、「心にふれあう関わり」を大切に、理念の具現化に向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼に参加している職員全員で唱和しており、理念に基づき日々の援助を行っている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念は目に付きやすい場所に掲示され、日々の朝礼時に唱和を行っている。日々の支援を検討する際にも立ち戻る原点として意識し、実践に結び付けるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は市民センターの行事に職員と参加できたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、地域の行事に参加する事ができず、地域の清掃活動のみ職員が参加させて頂いた。	自治会に加入し、回覧板も届けられる。例年は市民センター行事等を通じて地域交流を図り、運営推進会議には館長の出席を得ている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域住民やボランティアの方々との交流は中止せざるを得ない状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民センターの行事を通し、地域の方との交流を図っているが、今年に於いてはコロナ禍につき行事への参加は出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	令和2年3月よりコロナ禍につき運営推進会議は書面会議で報告を行う。11月に会議を行い3月以降の入居者の皆様のホームでのご様子を含め報告を行い意見交換を行い今後の課題とし役立てている。	入居者代表や家族代表、地域代表、民生委員、市民センター館長、地域包括支援センター担当者の方々をメンバー構成として、運営推進会議を開催している。今年度はコロナ対策のため書面会議とし、議事録を行政担当課へ送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センター職員・市民センター・地域代表・民生委員に参加頂きホームの取り組みのご報告を行い様々な提案を頂いている。	運営推進会議のメンバー構成として、地域包括支援センター担当者や市民センター館長の協力を得ている。新型コロナ感染防止対策や制度上の不明な点等を問い合わせ、情報共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に二回の研修会を行い、3か月に一度の委員会の会議を開催し、議事録を掲示板へ貼り回覧し、定例会議にて再度伝達、全職員に周知し、入居時にご家族様にご説明ご理解を頂いている。	身体拘束廃止に関する指針を作成し、3ヶ月毎の委員会活動や複数回の研修実施等を通じて、現状の振り返りと適切なケアの実践に取り組んでいる。また、家族や職員との共有認識を図るべく、取り組みを重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修会を行い、新人職員に対してはオリエンテーションの際にマニュアルを通し説明を行っている。また、マニュアルは全職員の目に留まる場所に設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を利用している方もいらっしゃる定期的な後見人様の来訪もあり職員も身近に感じており、制度についてのファイルも目に留まる場所に設置している。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、後見人の方との連携を図っている。また、必要時には情報提供が行えるよう資料を整備し、閲覧可能としている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は書面で説明を行い、理解しているか確認を行いながら契約を進め、疑問点などがないか、あれば都度説明し理解して頂ける様にしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度の満足度アンケート調査を実施し、家族の意見を参考にしている。	年に1回、入居者意向・家族満足度調査を実施し、集計結果を開示している。例年、クリスマス会等の家族参加行事を開催しているが、今年度はコロナ化の為、中止となっている。各担当者による便りや日々の様子を写真等にて伝え、情報共有を図っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を行っている。日頃より職員とのコミュニケーションを図り、その中での意見や提案は聞き入れ反映させている。	管理者は、風通しの良い職場環境づくりに努め、職員個々の主体的な意識の成長を促している。職員は各種業務を担当し、意見やアイデアを反映する機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状態を事務長へ報告し、事務長より上司へ伝達して貰い、功労勤務者には表彰制度があり、該当者には理事長より表彰状と贈答品がある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢・経験での排除は行っていない。個々の長所や能力を生かし發揮できるよう係りや担当を持ち、達成感や遣り甲斐に繋げ仕事楽しさを見いだせる様配慮し、人員に余裕がある時は職員と相談し興味のある研修に参加出来る様にしている。また、資格習得も勧めスキルアップを目指せる様にしている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。各種業務を担当する中で職員個々の能力を發揮できる場面を大切にしている。コロナ過の為、今年度は外部研修参加の機会は少ないが、職員個々の研修参加や資格取得をサポートしていく体制にある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定例研修会で、年に一度研修会を行い、研修後に人権についての検討会を行っている。	高齢者虐待予防や身体拘束、人権・プライバシー保護、倫理及び法令遵守等の研修を年間計画の中に位置付け、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内のファイルが全員の目に留まる場所にあり見られる環境にある。勧めたい研修は声をかけ人員に余裕のある時に行ける様に心がけている。また事例発表や事故の検討会等は都度行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加する事で情報交換や交流が行える。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様からこれまでの生活環境を聞き情報収集を行い、安心できる環境づくりに心がけている。ご本人様からの聞き取りが難しい場合は、家族・ケアマネージャー情報収集を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話の問い合わせや、見学来訪時にご家族様の困っている事や思いを丁寧に傾聴し、話易い雰囲気作りと対応に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の訴えや状態、ご家族様の意向を確認し、ご入居以降こまめなご様子の報告を行い、状況に応じた対応ご家族様と相談しながら考えあてている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中の家事作業等を一緒にする事で、自分の役割を見つけて頂く様に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子をこまめに報告、月に一度のみどりだよりでもお伝えしている。変化が生じた際は、カンファレンスを行いその結果、今後の方向性について、ご家族様の協力が必要な時はして頂いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄使用していた馴染みの物は自宅より持参し落ち着ける居室の環境づくりを行っている。敷地内のDSを利用していた方は、時々お連れしている。	かかりつけ医の継続や書信のやり取り等を支援している。コロナ過ではあったが、七五三のお祝いには、曾孫さんとの窓越し面会も実現している。野菜作りを趣味とされていた方には、敷地内でのガーデニングを継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格等を考慮し、席決めを行っている。また状況に応じてレク等の時は楽しめる方同士同じテーブルになる様配慮し、お世話好きな方が発揮出来る様、お席の配置を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でご退居となった方でも、お見舞いに伺う様にしている。またご相談などにも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のご意向に関しては、日々の会話の中は勿論、担当者会議で意向は聞き把握し、ご意向に近づける様努めている。	入居時の情報収集や日常の中での発言や行動、仕草等から推し測り、思いや意向の把握に努めている。発言や感情の変化等が記録に残され、職員間での共有に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人より今迄の生活歴や趣味をお聞きし、ご家族様にもホームが準備した用紙に記入して頂き、援助に役立てている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今迄の生活習慣の情報収集を行い、一人一人の方の有する力を把握し、無理のない生活リズムで過ごして頂く。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議等でのご本人・家族・担当者からの意見を基に、ご本人の意向・状態を見極めた上で介護計画を作成している。定期的なモニタリングを行い課題等を再確認している。	本人や家族等の意見を踏まえ、各担当者や専門職の意見を基にカンファレンスを行い、細やかな視点から個別・具体的な介護計画を作成している。また、理学療法士との連携による機能訓練計画に基づき、日々の歩行訓練等を実施・評価されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた個別ケアを行い記録に残している。モニタリングを通じて介護計画の見直しを行い、申し送りノートを活用し情報の共有、ケア内容の周知・徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスと連携し、イベント開催時は見学参加している。また、デイサービスのホールを借り、ホームの家族交流会のイベントを開催している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年の3月より、コロナ禍につき地域との交流は中止しているが、コロナ禍以前は、ふれあい昼食会・夏祭り・文化祭には作品の展示していた。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時にかかりつけ医に関しての月2回の往診があり医療との連携を図っている説明を行い、かかりつけ医の選択に関してはご家族の希望の医療機関を受診して頂いている。	入居時に事業所の医療連携体制について説明を行い、かかりつけ医について確認している。協力医による定期的な訪問診療や訪問看護師による健康管理が行われ、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4度訪問看護が来所しておりホームで作成した用紙に介護職からの気づきや相談・報告を記入しておき適切な指示を受け、24時間体制で対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、ホームよりサマリーを作成し情報態報告。また、病院からの問い合わせには迅速に対応し、ホームよりもSWや担当NSへ現状の問い合わせを行い早期の退院が出来る様支援する。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の方針に関しては、書面を通し説明を行ってご家族の意向を確認する。ホームで出来る事に関しては、具体的な例を挙げ説明を行っている。状態変化が生じた際は都度説明し、担当者会議を開き今後の方針を家族の意向に沿う様配慮する。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに説明を行い、意向を確認している。状況の変化に伴いその都度の意向確認と医師を交えた協議を行い方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な急変時の対応のマニュアルを直ぐ目に留まる場所に準備しており、定例会の研修課題に挙げ訓練し備えている。年に一度救命救急(AED使用法)の講習会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災避難訓練を年に2回実施している。(内1回は夜間想定)マニュアルに沿った避難ルートで、安全かつ速やかな誘導が出来る様訓練している。また、当日を運営推進会議とし、災害時の対応・連携について話し合いを行っている。	例年は、併設事業所との合同訓練及び夜間想定訓練を実施しているが、今年度は新型コロナ感染拡大防止のため、研修や設備点検等に置き換え、非常時に備えている。大雨や非常災害時に関する検討会や救命救急に関する研修を、年間計画の中に位置付けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を大切に、常に言葉かけや対応等についてを職員同士意識しており、排泄・入浴時は不要な肌の露出が無い様、ひざ掛け等を個別に使用しプライバシーに配慮している。研修会で検討会を行っている。	人権・プライバシー保護や接遇、倫理・法令遵守、認知症ケア等の研修を計画的に実施し、職員の意識を高めている。入居者本位に基づく関わりを大切に、職員の気付きを日常に活かせるよう指導している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言動などから意向を汲み取れる様常に心掛けており、意思疎通が困難な方は、ご家族様の要望希望から共に検討する。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活のペースに配慮し、個別に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度のケアスタイリストの訪問があり、ご家族様に了承を頂き、職員と一緒に買い物に出かけ衣類を自分で選んで購入して頂いたり、同じ服にならない様、外出時に衣類の自己選択の配慮を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は業者に委託している。盛り付けや食事前後のテーブル拭き、食器洗い、お盆拭き等の手伝いを職員と共に行っている。	外部委託された厨房より、バランス等に配慮された食事が提供されている。誕生日のパンケーキ作りを入居者と共に行ったり、手作りおやつを提供する機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量のチェックを毎回行っている。特に水分量に注意し、脱水症の予防に努め、体重増減、症状に合わせた摂取量をかかりつけ医と話し合い実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。ご自分で出来る方は自室の洗面所で実施、ご自分で困難な方は介助にて行い清潔保持を行っている。月に一度歯科往診を受けている。義歯の方は、夜間預かり洗浄液に浸け消毒実施。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄状況を把握しており、自立の方はご自身のタイミングで排泄され、時間毎にお声かけをし誘導、またオムツを使用されている方も排便時はタイミングを見計らいトイレでの排泄の支援を行っている。	個別の排泄状況の把握に努め、日中は出来る限りトイレでの排泄を基本として、声掛けや誘導を行っている。理学療法士との連携による機能訓練も実施されている。水分量の確保やマッサージ、歩行訓練等により、自然排便を促している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、こまめな水分摂取の促しや、自然排便の促せる様、起床時の牛乳提供や個別にヨーグルト等で自然排泄の促しを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回(月・水・金・土)入浴支援を行っている。お1人で入浴されたい方は、ご本人の意向を尊重し時間の配慮と安全な入浴を支援し、体調によっては清拭と陰部洗浄肌着衣類の交換を行っている。	基本的な入浴スケジュールは設定しているが、希望や体調、状況等に応じて、シャワー浴も含めた柔軟な対応に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々の体調や生活習慣に合わせて休息時間はお1人お1人個別に支援している。不眠に対しては、日中の過ごし方や臥床時間の配慮、医療との連携により睡眠時間の確保が出来る様にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週に一度、薬の配達日に訪問看護によるチェックを行い、処方変更時は口頭と専用の用紙に記入し情報交換を行っている。職員には申し送りノートに記入周知し、一定期間の状態観察を記録している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際に、生活歴等をご家族よりお聞きし、ホームの生活の中での家事作業、レクリエーションを通して楽しみや役割が見つけれられる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近隣に散歩に出かける時間を設けている。また、会話の中で行きたい場所等の話ができた場合は、外出計画を立て外出支援を行っている。3月以降はコロナ禍につき外出は中止している。	これまでは行事や個別支援にて積極的な外出支援を行ってきたが、新型コロナウイルス感染対策の為、現状は中止されている。敷地内での日光浴やガーデニング等、感染対策に配慮しながら、外気にふれる機会を確保している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向に沿って、買い物支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より電話をかけたいとの要望時は、電話をかけて頂いている。また、ご家族や御親戚・友人からの手紙は、ご本人様に渡し要望によっては、代読する等支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに季節のクラフトで作成した作品や行事の際に撮影した写真を掲示し、好きな音楽を流し居心地の良い環境作りが出来る様工夫をしている。	共用空間には、入居者と共に作成した季節感のある作品が飾られている。動線の確保や関係性への配慮等、安心して居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様個々の性格やADLを考慮したテーブル席の配置を行っている。入居者同士会話が弾む時間もてる様、環境作りと配慮を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際に、ご家族様と相談し、ご自宅より持ち込みたい使い慣れた馴染みの品等を置く事で居心地の良い環境づくりを行っている。また、ご自身作成したクラフト作品や書道等を飾る事で自分らしい居室の環境作りをしている。	馴染みの家具や御仏壇等が持ち込まれ、これまでの暮らしの継続を意識しながら、それぞれの方にとっての居室づくりに努めている。家具の配置や動線の確保に配慮し、リスク軽減に留意している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、車椅子や歩行器等が移動する為に十分な広さを確保しており、個々のADLに合わせ見守り介助を行っている。		